

南部町統合庁舎建設実施設計【概要版】

2019年5月

1. 基本方針

◆ はじめに

平成 30 年 1 月に策定した「南部町統合庁舎建設基本計画」を基に、統合庁舎の基本的なレイアウトや必要な機能、配置計画について、庁内に組織した検討会議や検討プロジェクトチームにおいて審議し、平成 31 年 1 月に統合庁舎建設基本設計をまとめました。

このたび、工事の施工性を考慮し、備えるべき機能や設備、内外デザインの詳細をまとめた実施設計が完成しましたので、今後は、令和3年3月末の完成を目指し、スケジュールどおりに計画を進めていきます。

◆ これまでの経緯

- 平成 28 年 6 月～ 7 月
役場庁舎のあり方に関する町民アンケート調査実施
- 平成 29 年 2 月
統合庁舎建設用地検討委員会設立
- 平成 29 年 4 月
統合庁舎建設用地検討委員会が建設候補地を答申
- 平成 29 年 5 月
建設地を中央公民館周辺とする方針を決定
- 平成 29 年 8 月
統合庁舎建設庁内検討プロジェクトチーム設立
- 平成 29 年 8 月
統合庁舎建設庁内検討会議設立
- 平成 29 年 9 月
統合庁舎建設委員会設立
- 平成29年12月
統合庁舎建設委員会が基本計画を答申
- 平成 30 年 1 月
統合庁舎建設基本計画を策定
- 平成 30 年 5 月
統合庁舎建設基本・実施設計業務プロポーザル選定委員会設立
- 平成 30 年 8 月
統合庁舎建設基本・実施設計業務の設計者を特定
- 平成30年10月～11月
統合庁舎建設にかかる町民ワークショップ開催
- 平成 31 年 1 月
統合庁舎建設基本設計が完成
- 令和 元 年 5 月
統合庁舎建設実施設計が完成



南側県道からみた外観の完成イメージ

◆ 基本理念

『 質の高い行政サービスを提供できる 高齢者から子どもまで誰もが安心して集う まちづくりの拠点 』

◆ 基本方針

1 気軽に立ち寄り利用しやすい庁舎	2 効率的で機能性の高い庁舎	3 環境に配慮した安全な庁舎	4 町民が誇りと愛着をもてる庁舎
1) 交通利便性の向上 2) 町民が利用しやすい窓口環境 3) ユニバーサルデザインの導入	1) 柔軟で働きやすい執務環境 2) 高度情報化社会への対応 3) 町民に開かれた議会施設	1) 災害時の安全な防災拠点 2) 環境にやさしい技術の導入	1) 町民の交流機能の充実 2) 周辺環境や景観との調和

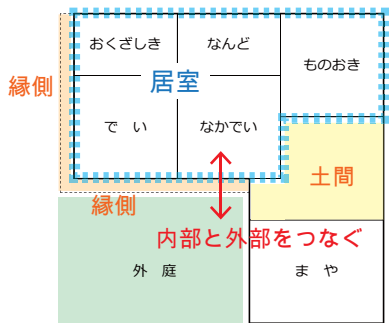
◆ 設計方針

『 地域がつながり、町民がつながる、集う

“ ながく愛される庁舎 ” を目指して 』

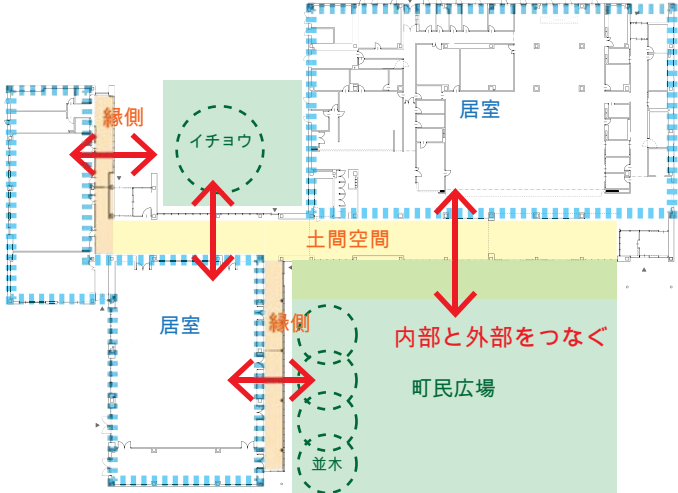
- 南部町の風土に根差した町民と共につくる “ ながく愛される庁舎 ”
- コミュニティが生まれる町民広場
- ユニバーサルでフレキシブルな庁舎
- 人と人をつなぎ、まち育ての起点となる庁舎

代表的な南部曲がり屋の構成



歴史や風土に配慮した庁舎

南部曲がり屋の土間空間と縁側空間をイメージした L 字型の平面構成



2. 施設概要

◆ 計画概要

① 敷地概要	
所在地	青森県三戸郡南部町大字平字広場 地内
敷地面積	18,887㎡
都市計画区域	区域外
用途・防火地域	指定なし
② 建築概要（実施設計）	
用途区分	庁舎 / 公民館
建築面積	合計 3,579㎡ 【庁舎 2,056㎡ / （仮）公民館 1,458㎡ プロムナード 65㎡】
延床面積	合計 6,278㎡ 【庁舎 4,856㎡ / （仮）公民館 1,422㎡】
階数	庁舎：地上 3 階塔屋 1 階 （仮）公民館：平屋建
構造	庁舎：鉄骨造、制振構造 （仮）公民館：鉄骨造、耐震構造
耐火種別	耐火建築物
駐車台数	231 台

◆ 事業スケジュール

年度		2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
設計	建築			
	外構			
	連絡道路			
	車庫・倉庫棟			
工事	施設解体			
	建築			
	外構			
	連絡道路			
	車庫・倉庫棟			

※引越し時期を検討後、開庁日を決定します。

◆ 概算事業費

実施設計における建物の概算事業費は以下のとおりです。

区分	建設費
庁舎	19 億 1,700 万円
(仮)公民館	6 億 7,800 万円
合計	約 25 億 9,500 万円

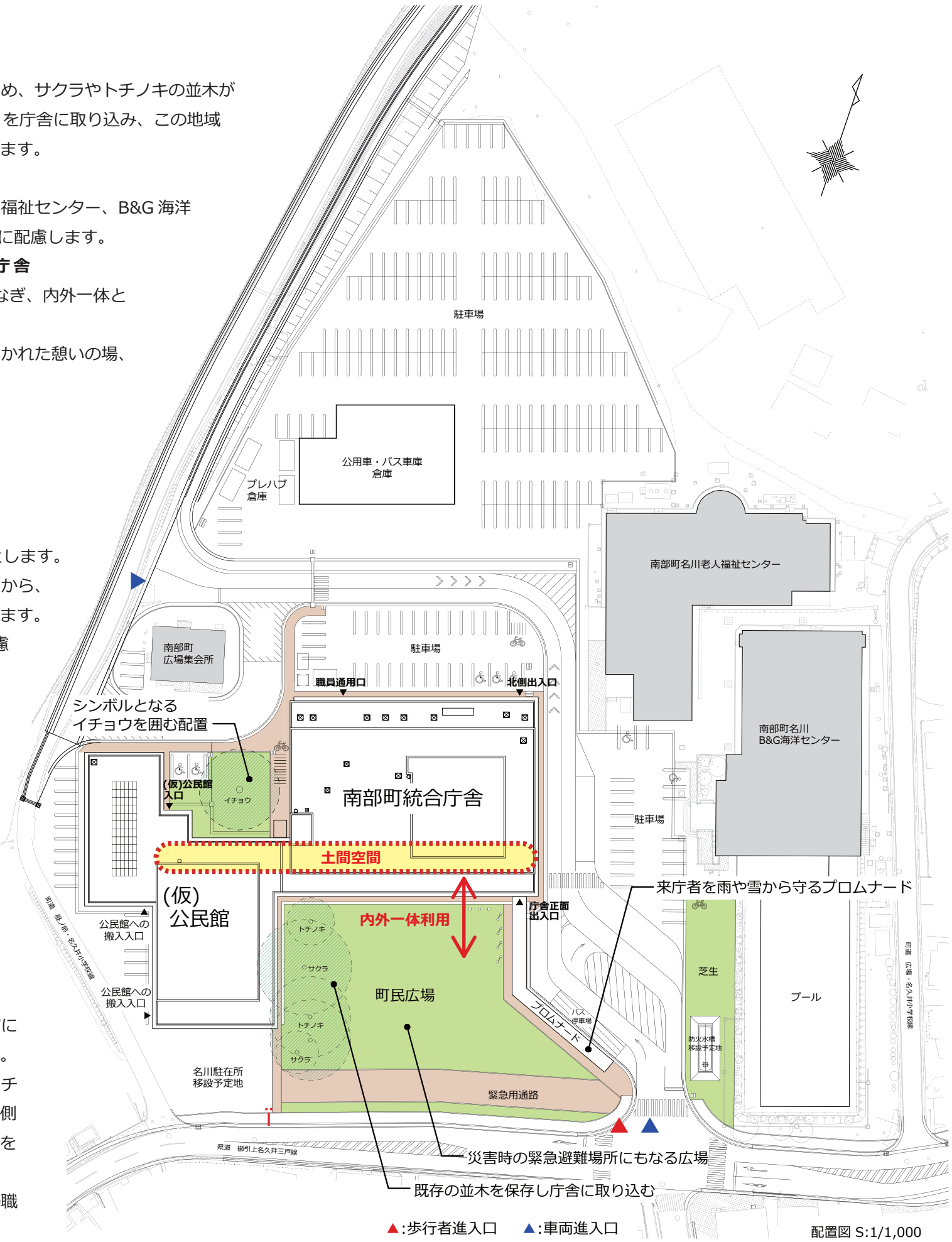
上記の金額には、設計費や外構整備費、備品購入費、及び連絡道路整備費は含んでおりません。

3. 配置計画

1. 地域に根付く木々を囲んで建つ庁舎
- ・計画地にはシンボリックなイチヨウの木をはじめ、サクラやトチノキの並木があります。この地域の人々を見守ってきた木々を庁舎に取り込み、この地域の歴史や風土が感じられる風景のある庁舎とします。
2. 既存施設と連携しやすい配置
- ・新設する庁舎と（仮）公民館は既存施設（老人福祉センター、B&G 海洋センター）と近接した配置とし、施設間の連携に配慮します。
3. 町に開かれた気軽に立ち寄りやすい庁舎
- ・庁舎、（仮）公民館、町民広場を土間空間でつなぎ、内外一体となった空間をつくります。
- ・南側県道に接する庁舎前の町民広場は、町に開かれた憩いの場、また災害時の防災広場として整備します。

4. 外部動線計画

1. 安全な敷地内歩車道計画
- ・敷地内は歩車分離を徹底し、安全を図ります。
- ・車両出入口は南側県道及び西側町道の 2 か所とします。
- ・敷地内にバス停及びバスの転回所を設けることから、一般車両動線との交錯を極力避けるよう配慮します。
- ・（仮）公民館諸室への物品、資器材の搬入に配慮し、車の寄り付けが可能な設えとします。
- ・南側県道から庁舎への歩行者アプローチはプロムナード（屋根付通路）からとし、雨雪から歩行者を守ります。
- ・プロムナードは歩行者の安全を守るだけではなく、ベンチを設け、休憩や立ち話など気軽に利用できるよう計画します。また、車寄せとして一般車両の他、路線バスや多目的バスにも対応します。
- ・北側駐車場に公用車・バス車庫、倉庫を集約し利便性を高めます。
2. 出入口
- ・施設管理がしやすいよう、庁舎と（仮）公民館にそれぞれ独立して利用可能な出入口を設けます。
- ・東側駐車場及び南側県道からの歩行者アプローチに対応する土間空間に面した正面出入口と、北側駐車場からのアプローチに対応した北側出入口を設けます。
- ・庁舎の休日夜間出入口は、守衛室のある北側の職員通用口になります。



5. 平面計画

1. 庁舎と（仮）公民館をつなぐ土間空間

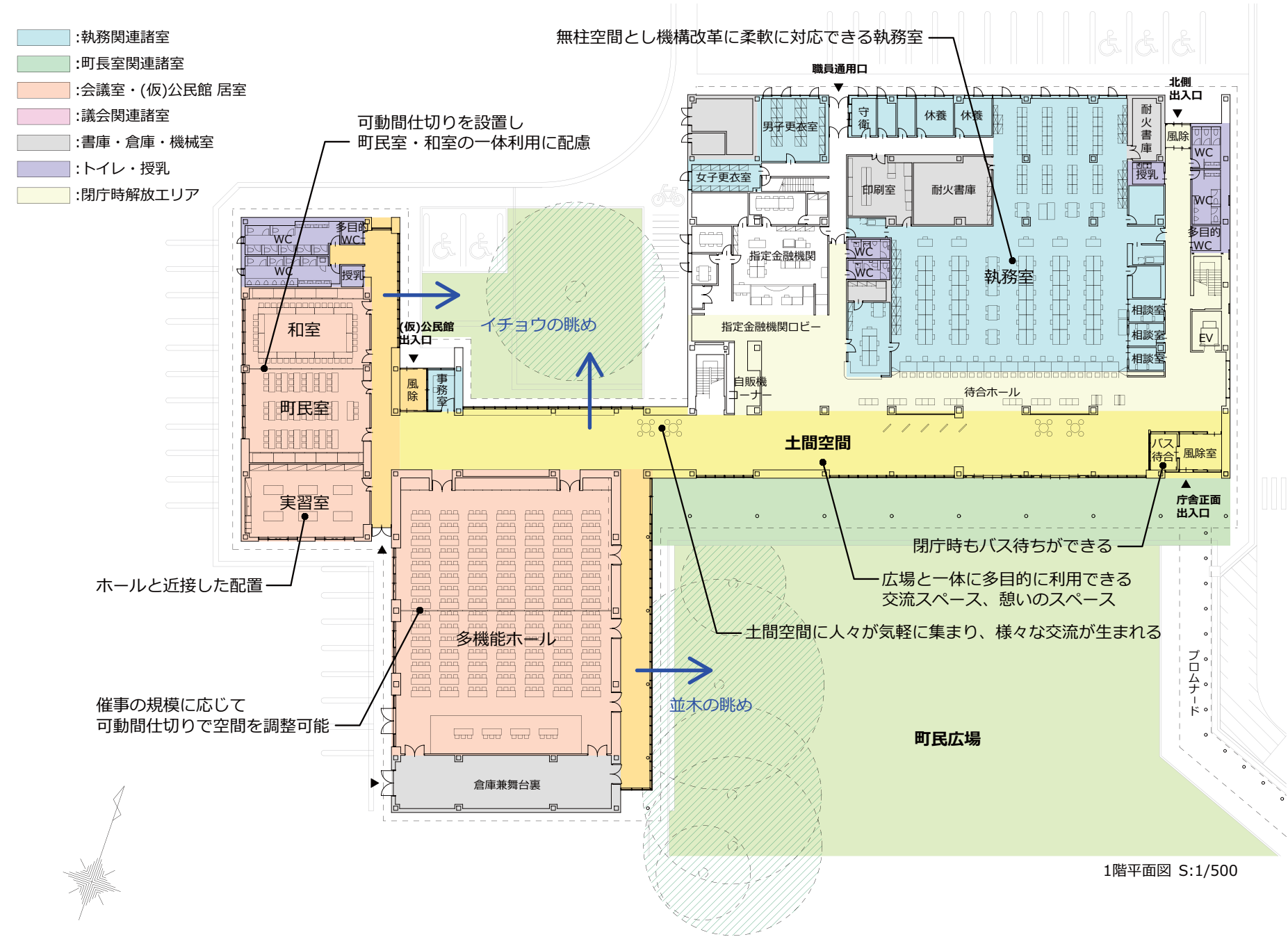
- ・1階には町民の交流スペースとして庁舎と（仮）公民館をつなぐ土間空間を設けます。
庁舎と（仮）公民館がつながれることで、主動線として機能するのはもとより、陽だまりの空間として町民の憩いのスペースとなります。
- ・土間空間は休日もオープン可能な設えとすることで、町民の居場所としてより重要な位置づけとなります。

2. わかりやすい窓口機能とフロア構成

- ・1階には町民の利用頻度の高い窓口を集約し利便性を高めます。
- ・2階には町長室を中心に総務課、企画財政課等の行政機能や、専門性の高い課を配置します。
- ・3階は議会関連諸室を配置します。

3. 利便性の高い集会施設

- ・（仮）公民館は平屋とし、多機能ホール、実習室、町民室、和室の連携使用に配慮した計画とします。



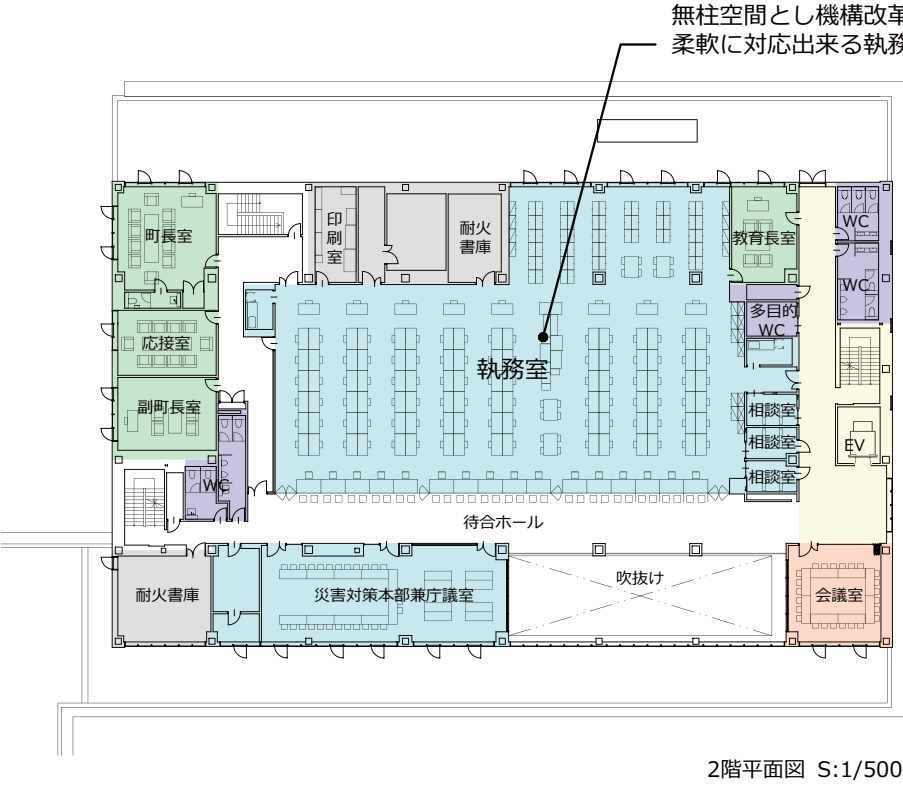
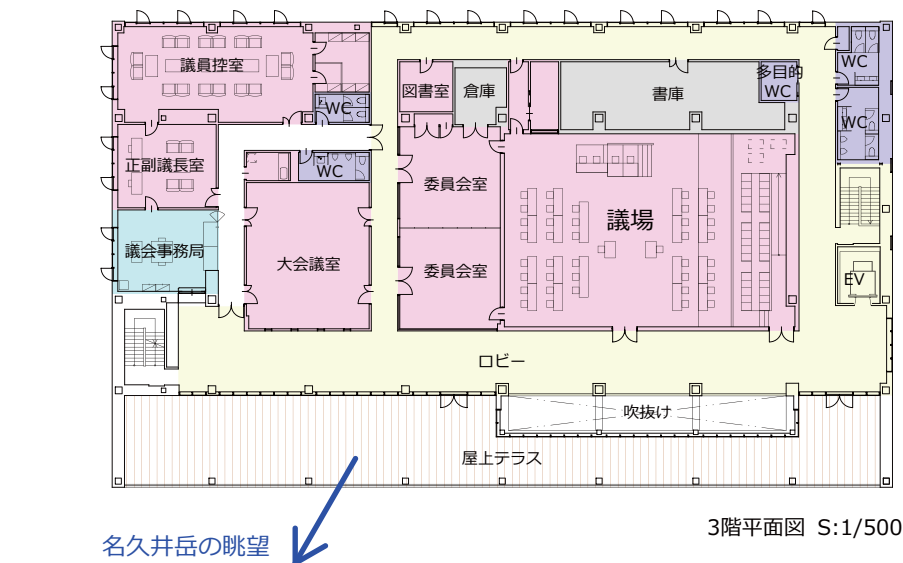
6. 内部動線計画

1. わかりやすい建物内動線

- ・土間空間を主軸とする東西の主動線から南北に枝分かれする廊下とすることで、来庁者へわかりやすい動線を実現します。

2. 職員の作業動線と来庁者動線の分離

- ・土間空間を来庁者が行き来する「パブリックエリア」、執務室、執務関連諸室などを「プライベートエリア」と設定し、エリア間を分離することでプライバシーやセキュリティに配慮した計画とします。



7. 景観・立面計画

1. 南部町の歴史と風土を感じられる庁舎

- ・南部町は南部藩発祥の地であり、県立自然公園にも指定されている名久井岳をはじめ、果樹園が広がる緑豊かな自然が広がる魅力あふれる町です。南部町の美しい風景や敷地内に残されるイチヨウの木や並木と調和するよう、建物外観は自然に溶け込むような色彩計画を行います。
- ・町内にある古民家や南部曲がり屋にみられる漆喰壁と、城下町の近代化により多くみられたレンガ壁をモチーフとした外観デザインとし、地域の風土や歴史文化を感じられる建物を目指します。
- ・南部地方には多くのレンガ建築がみられ、人々に親しまれています。南部藩発祥の地の風土に調和した親しまれる庁舎をつくります。

2. 地域に根付く木を活かした景観づくり

- ・敷地内に現在残されているイチヨウ及びサクラ、トチノキ等の並木は保存し、周囲の自然豊かな美しい景観と庁舎と（仮）公民館が調和するよう建物に取り込みます。

3. 四季折々に変化する環境と調和する庁舎

- ・住宅街に近接する（仮）公民館は平屋建てとし、森の中にある建物をイメージします。森の木陰から広々とした芝生の広場を望む豊かな景色をつくります。
- ・プロムナードと庁舎の前底の高さを平屋部分と揃えることで、周辺住宅への圧迫感を軽減し、街並みとの調和を図ります。
- ・底の天井は板張りとし、親しみやすく豊かな環境と調和しやすい空間をつくります。
- ・南西方向に名久井岳を望むことから3階には屋上テラスを設け、町のPRスポットとなるような計画とします。

8. 防災計画

1. 災害時の情報収集・迅速な対応に適した配置

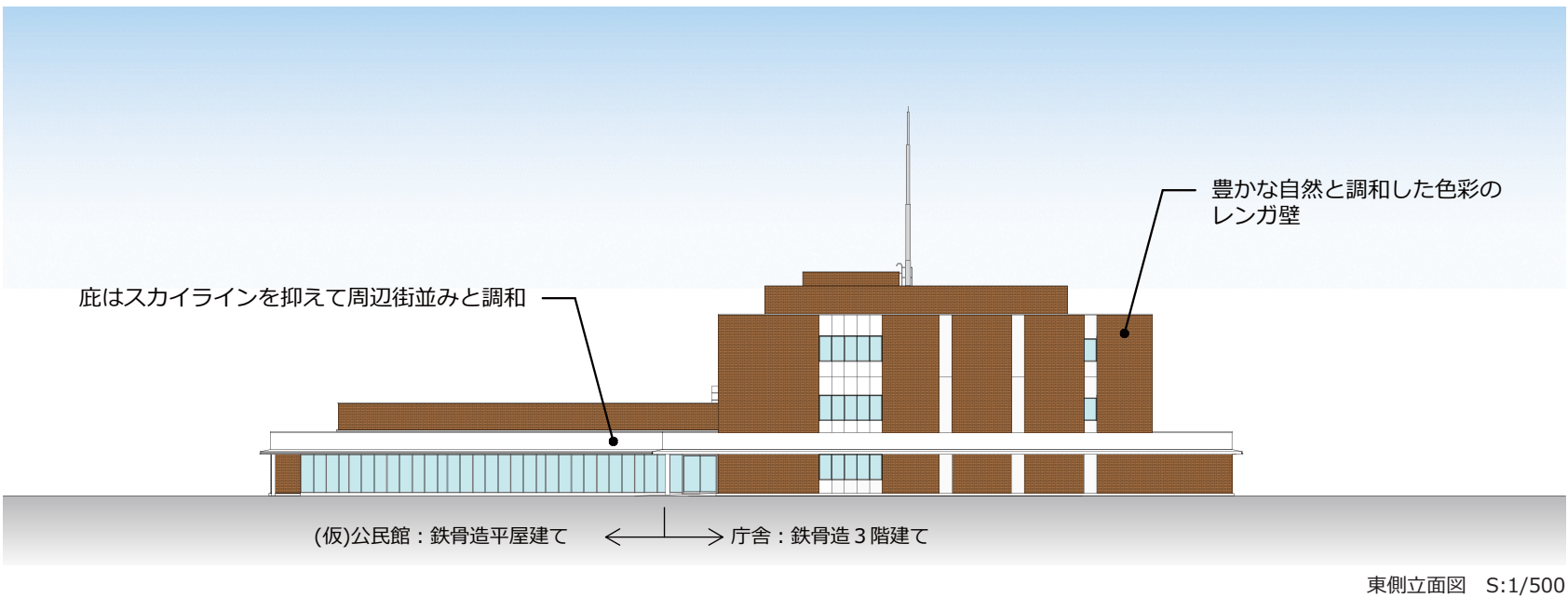
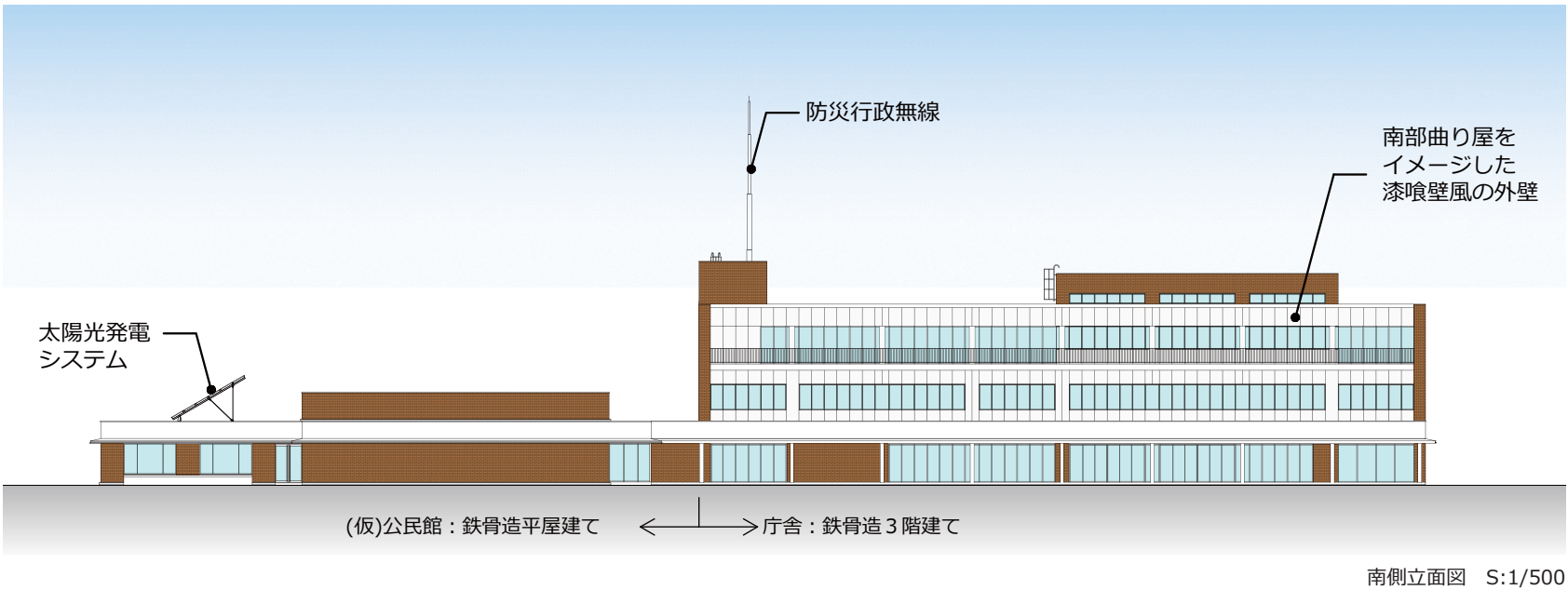
- ・町長室付近に災害対策本部兼庁議室を設け、情報把握や関係機関との連絡調整など迅速な対応が可能な配置とします。

2. 防災拠点施設としての機能

- ・庁舎と（仮）公民館の前にある町民広場は防災広場の役割を担い、災害時には炊出し等ができるようにします。
- ・町民広場に面する土間空間は一体的な災害時利用ができます。近隣住民の一時避難場所、救援物資の保管など災害時の対応が可能です。

3. 防災拠点として安全を確保する構造計画

- ・庁舎には、災害時に防災拠点機能を維持し、建物の長寿命化に貢献、ランニングコストが少ない制震構造を採用します。均等スパンによる安定した構造とし、基礎工事におけるコスト、施工性、工期等を比較しながら設計します。
- ・レンガ壁は耐火性や断熱性に富みます。また、熱を加えても有害物質の発生が無く、安全で高性能な材料といえます。町の防災拠点として安全性に配慮した計画とします。



9. 環境配慮計画

1. 建築の形態を活かした環境負荷の低減

- ・季節ごとの卓越風を考慮した平面形状と開口部の配置、バランス式自然換気窓等の設置により、建築に「呼吸する外皮」をつくり、心地よい風が通り抜ける爽やかな室内環境をつくります。
 - ・重層する吹抜けが有効な重力換気を誘引するほか、吹抜けを介した柔らかな自然光も内部空間に降り注ぎ、人工照明を最小化することができます。
 - ・平面形を単純なものとすることで相対的にペリメータ（※）の割合を減らします。また、窓廻りの断熱性能を高めて執務室周囲に熱的緩衝帯としての回廊部分をつくり、建築全体の冷暖房負荷を大幅に低減してランニングコストを抑えます。
- （※）ペリメータ：平面の外側の境界部分

2. 自然エネルギーの活用

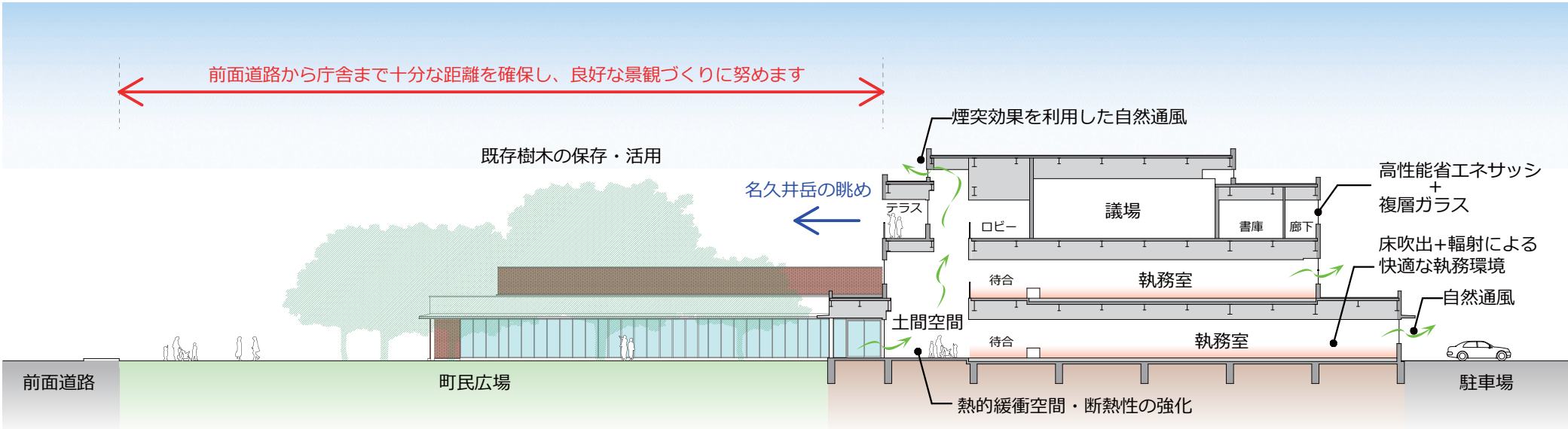
- ・"風"の利用：全館自然通風
建物全体を自然通風により換気します。
- ・"光"の利用：太陽光を無駄なく活用
太陽光発電システムを採用します。

3. 高断熱化、居住域空調による快適な執務スペース

- ・執務室周囲の土間空間を熱的緩衝空間と位置づけ、冷暖房負荷を大幅に低減します。
- ・断熱性能の高い外部建具を設置し空調負荷を低減します。
- ・床吹出し空調＋輻射の併用方式とし、底冷え感や気流による不快感の無い快適な省エネ空調システムを構築します。

4. 積雪寒冷地への対策

- ・前面道路から庁舎出入口にかけプロムナードを設置し、雨や雪から人々を守り安全な歩行空間をつくります。
- ・縦樋には「樹受け＋ドレンキャップ」を設置し凍害を防ぎます。



10. 内観パース



1 階正面入口から（仮）公民館の方向を見た土間空間のイメージ



議場の完成イメージ



多機能ホールの完成イメージ